

特別の教育課程編成・実施報告書

香川 都・道・府・ 県			
学 校 名	管 理 機 関 名	設 置 者 の 別	校 種
直島町立直島中学校	直島町教育委員会	国・ 公 ・私	小・ 中 ・高・中等

1 特別の教育課程の編成

(1) 特別の教育課程の概要

中学校第1～3学年の外国語の年間時数を増やし、中学校学習指導要領第2章第9節外国語に定める内容事項に加え、小中連携を意図して独自に開発した単元や、総合的な学習の時間と関連させた地域発信型単元などに取り組み、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を統合的に活用したコミュニケーション能力の育成を目指す。

(2) 必要となる教育課程の基準の特例

中学校第1～3学年の外国語を年間160時間とする。

(外国語140時間に、新たに「総合的な学習の時間」から20時間を充てる。)

(3) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

直島町は、瀬戸内海の小さな島にあり、小・中学校はへき地1級の学校である。児童・生徒は明るく素直であるが、長い間、「表現力の育成」が課題であった。近年、直島は「現代アートの島」として世界の注目を集め、国内外から多くの観光客を迎えるようになり、日常的に外国人を見かけるようになった。そのような中、現在の生徒達は、異なる文化や考え方もつ人々と交流していく機会が多くなっている。

直島町では、昭和63年度から町独自に外国語指導助手(ALT)を雇用して英語教育に取り組み、過去3回文部科学省指定研究開発学校として研究を推進してきた。平成23～25年度には、小・中学校が文部科学省指定研究開発学校として、特に小学校、中学校、高等学校の学習内容のつながりの中で、将来の小中連携を含む英語教育の在り方について研究した。研究主題を「コミュニケーション能力と豊かな国際感覚の育成」と設定した。

小学校においては、英語が教科化になるよりも以前の平成27年度より、第5・6学年で週2時間、第3・4学年で週1時間の新設教科「外国語」を、第1・2学年で週1時間の「外国語活動」を設定して英語教育に取り組んできた。連携して作成した新直島ティーチングプランを基盤として、中学校では外国語の時数を増やし、デジタル教科書や一人一台端末を活用して英語をいかに学習するかという観点から目標を具体化し、これまでの研究成果を生かしながら、小学校との連携をさらに深化させていきたい。

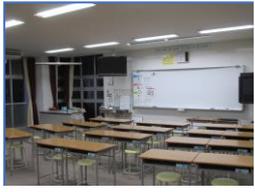
令和5年度においても、令和4年度に引き続き、教育課程特例校として、今までの取組を継続しており、グローバル化社会に対応できる生徒を育成するために、小・中学校を通じて一貫した学習到達目標を設定した指導の在り方について研究を推進している。本年度より、生徒のタブレットに学習者用デジタル教科書を導入し、音と文字を関連させて理解できるよう、一人ひとりに応じた学習の個性化を図ることができるツールとして活用することができた。次年度からもICTを利活用しながら、「話すこと」・「書くこと」の2技能を結び付けた学習に取り組んでいきたい。

2 取組期間

・特例の適用開始日 : 令和 4年 4月 1日 (3年おきの申請をせずに、特例校として継続できることとなった。研究を積み重ね、3年おきに研究の発表を行うこととする。)

3 特別の教育課程に基づく教育の実施状況

(1) 実施体制

学 年	場 所	指 導 者		
		T 1	ALT	T 2
第1学年		学級担任	ALT	児童支援： 学年団教員
第2学年		学級担任	ALT	
第3学年		学級担任	ALT	
第4学年		学級担任	ALT	
第5学年	【小学校国際理解教室】	小学校外国語専科	ALT	児童支援：学級担任
第6学年		中学校外国語教員	ALT	児童支援：学級担任
第7学年(中1)		中学校外国語教員	(ALT)	中学校外国語教員
第8学年(中2)		中学校外国語教員	(ALT)	中学校外国語教員
第9学年(中3)		中学校外国語教員	(ALT)	中学校外国語教員

(2) 指導計画及び授業の内容

中学校卒業段階で、「自分たちのことや地域のことを話題にして英語でやりとりができる」生徒の姿を目指して、下記について配慮し実施した。

① 入門期の学習の工夫

小学校段階の「音と文字をつなげる活動」を踏まえて、中学校1年生でも「音韻認識」や「音素認識」を高める活動を行った。音と文字をつなげる活動にゲーム形式やゲーム感覚を取り入れ、単語を読む際も、教師の発音をリピートさせるのではなく、まず文字を見て生徒自ら読ませるようにし、読みづらかった単語に比重をかけて発音指導するなど工夫した。

② 小学校英語とのつながりを意識した言語活動の工夫

小学校における教科「外国語」が全面実施され4年目となった。小学校6年生の単元指導計画に中学校教員が携わり授業をすることで、小学校英語の学習内容の正確な把握が今まで以上に可能になった。中学校では、小学校で学んだ言語材料を定着させるために、さまざまな言語活動において、小学校での学習内容を適切な時期に自然な流れの中で繰り返し使用させるなどして、小中の円滑な接続を図ることができるよう工夫する。特に、日々の帯活動を大切に言語活動を行った。

③ まとまりのある内容を話したり、即興でやり取りしたりする言語活動の工夫

コミュニケーションの目的や場面、状況を意識した具体的な課題を設定し、まとまりのある内容を話す（発表する）機会を与えた。相手意識や目的意識を大切にし、自分が聞き手であったら何を聞きたいかを考えさせたり、理解を確認しながら話をさせたりした。やり取りについては、コミュニケーション・ストラテジーの指導をしたり、簡単なメモだけを見てチャットさせたりした。全体でフィードバックし、どう対話を継続・発展したらよいか考えさせた後、再度、相手を変えてチャットさせるなど、繰り返し言語材料を使わせる場面を設定し改善を図った。さらに、教師からだけでなく、生徒同士の間で評価も大切にしながら言語活動を行った。

④ 地域発信型単元の開発

毎年、小・中学校が連携して、「Meet the World」を設定し、教科や総合的な学習の時間など既習の学習内容と関連させながら、地域をテーマに発信する言語活動をしてきた。本年度も、午前中に県内からの17名のALTを招いて、「Meet the World」を開催することができた。

※「Meet the World」とは、直島小・中学校の児童生徒と県内外のALTが交流する行事である。

(3) 児童・生徒への教育上適切な配慮及び保護者への配慮

① 児童又は生徒の発達の段階並びに各教科等の内容の系統性及び体系性への配慮

中学校では、中学校学習指導要領第2章第9節外国語に定める内容事項に加え、小学校の外国語活動及び教科「外国語」で育まれた英語でのコミュニケーション能力の素地をもとに、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を統合的に活用したコミュニケーション能力の育成を目指した。その際、英語教育において小中連携を充実し、小学校で実施している内容を十分に踏まえて、生徒の発達の段階にあわせた内容等を取り扱うよう配慮した。また、小・中学校が連携して年間指導計画等の作成や系統性の吟味を行い、無理のない教育課程を編成して実施した。

② 保護者の経済的負担への配慮その他の義務教育における機会均等の観点からの適切な配慮（小学校、中学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部若しくは中学部において特別の教育課程を編成・実施する場合のみ記載）

保護者の経済的負担への配慮その他の義務教育における機会均等の観点でも最大限配慮し、保護者の理解と協力のもと英語教育を推進したので、経済的負担にはなっていない。

③ 児童又は生徒の教育課程特例校への転出入に対する配慮

生徒の転出入に当たっては、当該学校と連絡を取り教育課程上の配慮をした。転入時には、転入生徒は従来の教育課程の学習を行っているため、未履修の内容については、個別に対応した。また、転出時も同様に、転出先学校と連絡を取り、履修内容を確認後、個別に対応した。

(4) 情報提供の状況（詳細は別添資料参照）

① 県内の中学校からの参加者と指導者、そして直島小中学校教員に年2回の校内研究授業を行った。

② 実際に来られたALTに対して、小5と中1、小6と中2、そして中3はsupervisor的な役割としてグループに分かれて直島の「家プロジェクト」と「ベネッセアートサイト」の作品について、「Meet the World」にて英語で発表をした。

4 実施の効果、課題と今後の取組

(1) 実施による効果

生徒は英語を系統的・継続的に学び、標準学力調査（CRT）（全学年対象）において顕著な成果が出ている。また、学校全体で英語検定受検を推進し、3級以上取得率において、県が求める目標数値をほぼ達成できている。（別添資料参照）

(2) 課題と今後の取組

① 直島小学校と連携を図り、オリジナルの外国語学習指導指針に教科書教材との関連を図り、完成した新直島小・中学校外国語学習指導指針（「New Teaching Plan」）を活用して、指導方法の検討と次年度からの新しい目標を立てて研究の推進に努めていきたい。

② 教職員が約3年周期で異動となる中で、今後も円滑な小中連携を目指し、系統的・継続的な質の高い授業を維持するために、教員研修の充実や教材開発の在り方を検討する。

【特別の教育課程を編成・実施する学校一覧】

(小学校 1 校、中学校 1 校、高等学校 校、中等教育学校 校)

学校名	設置者の別	学校種
直島町立直島小学校	公立	小学校

※複数校が同一の「特別の教育課程編成・実施計画により特別の教育課程を編成・実施している場合、その学校名をすべて記載する。

【担当者】

1. 管理機関

名称	直島町教育委員会
住所	〒761-3110 香川県香川郡直島町 1122-1
連絡先	電話番号 087-892-2882 FAX番号 087-892-3888 E-mail zyn3579@town.naoshima.lg.jp
担当者	所属・職名 直島町教育委員会次長補佐 堀口 亮

2. 都道府県教育委員会/都道府県私立学校主管課

名称	香川県教育委員会 義務教育課
住所	〒760-8582 香川県高松市天神前 6 番 1 号
連絡先	電話番号 087-832-3741 FAX番号 087-806-0231 E-mail
担当者	所属・職名 香川県教育委員会義務教育課主任指導主事 出演 大資

直島町立直島中学校 教育課程表

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数									道徳の授業時数	総合的な学習の時間の授業時数	特別活動の授業時数	新設教科等の授業時数	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語					
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	160 (+20)	35	30 (-20)	35		1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	160 (+20)	35	50 (-20)	35		1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	160 (+20)	35	50 (-20)	35		1015
合 計	385	350	385	385	115	115	315	175	480 (+60)	105	130 (-60)	105		3045

* 1 標準授業時数と異なる授業時数を設定する教科等については、標準授業時数からの増減を（ ）で記入し、網掛けにすること。

* 2 英語による教育（いわゆるイマージョン教育）を行う場合には、標準授業時数や増減時数の下にアンダーラインを引くこと。

第2学年1組 英語科学習指導案

授業者 教諭 山下 愛
教諭 白井 李佳
ALT Nahass Benjamin

1 日時 令和5年10月20日（金）第5校時（14:00～14:50）

2 場所 英語教室

3 単元名 Let's Talk 3 ～電車の乗り換え～（NEW HORIZON English Course 2）

4 単元について

本単元では、乗り物での目的地への行き方をたずねたり、答えたりすることができる単元でもある。言語材料としては、丁寧をお願いする時に使用する **Could you** や、Unit5 で学習した文法事項が扱われている。本時は、学習者用デジタル教科書を用いて、自分に適した習熟度で教科書の重要表現を学習し、基礎を固めた上で、生徒にとって身近な日常生活の一場面としてとらえやすい、高松での電車の乗り換えについて、インフォメーションギャップのある即興でのやりとりに発展していく活動にふさわしい単元である。積極的に相手を理解しようとしたり、相手に伝わりやすく工夫したりしようという態度を育成することができる。また、決まった英語表現が多く含まれている題材なので、自然な会話をつなげるために既習の表現を取り入れるなどして、より実際の場面で使うことができるように生徒が工夫できる題材である。

5 学級について

本学級2年1組20名の生徒は、小学生の頃から英語で表現する活動に対する意欲が高く、英語でコミュニケーションをとろうと主体的に取り組むことができる。そのため、帯活動のペアトークなどの英語で「聞くこと」「話すこと」の活動に積極的に取り組んでいる。しかし、単語を正しく書いたり、正しい語順で文章を作ったりすることに、苦手意識をもっている生徒が多い。そのため、身近な話題に関して30秒間で話したことを、英語で書く **trio-conversation** では、「話すこと」と「書くこと」を関連付けた活動を取り入れている。英語で話す楽しさや自分の考えや思いを伝える大切さを感じさせながら「書くこと」の力を育成されることを期待したい。また、ペアや3人グループで行う活動を通して、級友と交流しながら学び合える機会につなげたい。

6 指導にあたって

以上のような学級の実態を踏まえた上で、以下の点に留意する。

- ① 帯活動として、3人で行う Trio-Conversation を通して、既習事項を繰り返し使う機会を設け、「書くこと」と「話すこと」を関連させる。
- ② 学習者用デジタル教科書を活用して、生徒一人ひとりの習熟度に応じた支援・指導を行う。
- ③ 教科書の重要表現だけでなく、実際の場面でどのようなやりとりがされるか生徒が想定して会話ができるように、場面設定を行う。

7 単元の目標

- ・ 乗り物で、目的地に到着できるように、行き方についてたずねたり、答えたりするときに使う、重要表現について意味や働きについて理解できる。（知識・技能）
- ・ 乗り物で、目的地に到着できるように、行き方についてたずねたり、答えたりできる。（思考・判断・表現）
- ・ 学習者用デジタル教科書を活用して、前時の学習内容の振り返りを自分に適した学習方法で行うことができる。また、グループでのやりとりをもとに、改善点を考えることができる。

（主体的に学習に取り組む態度）

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
乗り物での行き方をたずねる表現や乗り換えに関する表現を理解し、学習用デジタル教科書を活用して重要表現を読んだり書いたりできる。	乗り物で、目的地に到着できるように、行き方についてたずねたり、答えたりしている。	学習者用デジタル教科書を発音や内容理解に活用して、意欲的に学習に取り組もうとしている。乗り物で目的地に到着できるように、行き方についてたずねたり、答えたりしようとしている。

9 学習指導計画

- ・乗り物での行き方をたずねる表現や乗り換えに関する表現の意味や働きを理解する。・・・1時間
- ・乗り物で目的地に到着できるよう、行き方についてたずねたり、答えたりする。・・・1時間（本時）

10 本時の学習指導

- (1) 目標 ① 学習者用デジタル教科書を活用して、自分に適した習熟度で重要表現を学習し、音と文字を関連させて理解することができる。
- ② 香川の観光地への行き方について、即興性のあるロールプレイで、実際の情報を元に乗り物での目的地への行き方についてたずねたり、答えたりできる。

(2) 準備物 教科書、ノート、タブレット、ワークシート、辞書（英和・和英）

(3) 学習指導過程

時間	学習活動と学習内容	教師の指導・助言および支援活動	評価
5分	1 Warm-up をする。 trio-conversation をする。 (1) 30秒間で直島に来る観光客にアドバイスをする。 (2) 1分間で話したことを書く。	○英語を学ぶ雰囲気作りを行う。 ○分からない表現については、ALTや級友に尋ねる。 ○相づちなどを入れて会話を円滑に進めるようアドバイスする。	【思考・判断・表現】 (ワークシート)
10分	2 前時の学習事項を確認する。 (1) 音読練習（シャドーイング） (2) マスク機能を使って、音読 (3) ペアで（2）を行う。 (4) ディクテーションをする。	○読み上げ機能を利用し、各自のペースで音読練習をさせる。 ○自分に適したレベルのマスク機能を選択し、ペアトークをさせる。 ○音と文字のつながりを意識させる。	【主体的に学習に取り組む態度】 (活動の観察) 【知識・技能】 (ノート)
香川の観光地への行き方を詳しくたずねたり、答えたりしよう。			
5分	3 重要表現を用いて練習する。 (1) ALTに出題される目的地までどのように案内するか考える。 (2) ペアで練習する。 (3) より詳しくたずねたり、答えたりするためのフレーズを考える。	○ワークシートを参考に、ペアで確認するよう指示する。 ○難しい表現も既習事項を使って英語にするよう伝える。	【主体的に学習に取り組む態度】 (活動の観察)
25分	4 即興性のあるロールプレイをする。 (1) 2人ペアで行き方をたずねたり、答えたりする。 (2) 中間指導をする。 (3) 共有したことをもとに、2人ペアで行き方をたずねたり、答えたりする。	○インフォメーションギャップのある資料で、できるだけ英語で会話を行うことで実際の状況を想像できるようにする。 ○良かった点や改善点をグループや全体で共有して、次のやりとりに生かす。 ○反応をしたり質問をしたりしながら意思疎通することを意識させる。	【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 (活動の観察)
5分	5 振り返りをする。	○重要表現を使い、積極的に伝えることができたかどうか確認する。 ○時間があればロールプレイで使った重要表現を書くよう指示する。	【主体的に学習に取り組む態度】 (ワークシート)

(4) 評価

- ・重要表現を用いて、電車での行き方をたずねたり答えたりすることができたか。（活動の観察）
- ・グループでロールプレイをふり返り、良かった点や改善点を考えることができたか。
(活動の観察、ワークシート)

第3学年1組 英語科学習指導案

授業者 教諭 白井 李佳
教諭 山下 愛
ALT Nahass Benjamin

1 日時 令和5年7月3日(月) 第5校時(14:00~14:50)

2 場所 英語教室

3 単元名 Unit3 Animals on the Red List Read and Think① (NEW HORIZON English Course 3)

4 単元について

本単元では、環境と私たちの生活について考えるために、絶滅のおそれのある動物などについて書かれた文章の概要を捉え、自分の考えを話したり書いたりすることができる。また、デジタル教科書を使って本文の内容理解を自分に適した方法で進めていくのにふさわしい単元でもある。言語材料としては、Unit3で初出の **It for to** や **want** 人 **to**, **let / help** 人 原形が扱われており、それらを理解したうえで本文の内容理解につなげていく。本時は、絶滅危惧動物のトキについて知り、そこから自分の興味のある動物について必要な情報を得て、その情報や自分の考えや思いを相手に伝える活動を行う。本文の内容を理解したうえで、自分の興味の幅を広げ、単元で習った文法等を使いながら自分の考えや思いを相手に伝えるという、学んだことを生かして活用する態度を育成することができる。

5 学級について

本学級3年1組の生徒は、小学生の頃から外国語活動や英語の授業に対する意欲が高く、英語でコミュニケーションをとろうと主体的に活動することができる。そのため、帯活動の **one-minute chat** などの英語で「聞くこと」「話すこと」の活動に積極的に取り組んでいる。しかし、その活動の中でも第三者に情報を伝えたり自分の考えを言ったりすることに苦手意識をもっている生徒が多く、それに伴い話したことを書いて表現することや「書くこと」自体に苦手意識を持つ生徒が多い。「話すこと」と「書くこと」を関連付けた活動を取り入れ、級友と交流しながら学び合える機会につなげたい。

6 指導にあたって

以上のような学級の実態を踏まえた上で、以下の点に留意する。

- ① 帯活動として、ペアで行う **one-minute chat** を行い、お互いの考えを述べて、代表者のやりとりを全体でフィードバックする。
- ② デジタル教科書を活用して、本文の内容理解につなげたり既習の文法や表現を活用して即興で説明や思いを伝えたりすることができるようにする。

7 単元の目標

- ・ 本文の内容を理解するために、根拠を見つけて正しい文かどうか判断することができる。(知識・技能)
- ・ 既習事項を理解し、それらの文法や表現を使って説明や思いを話したり書いたりすることができる。(思考・判断・表現)
- ・ デジタル教科書を活用して、前時の学習内容の振り返りを自分に適した学習方法で取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
絶滅危惧動物に関する文章を読んで内容を理解し、根拠を見つけて正しい文かどうか判断することができる。	既習事項を使って、絶滅危惧動物に関する紹介を述べたり書いたりしている。	デジタル教科書を発音や内容理解などに活用して、意欲的に学習に取り組もうとしている。

9 学習指導計画

- ・ 自分にとって大切なことや楽しいことを伝えたり書いたりする。・・・1時間
- ・ 友だちに「・・・してほしい」とお願いしたり、動詞を変えて違う表現を学んだりする。・・・1時間
- ・ メグと海斗のやりとりから多くの動物が絶滅の危機に瀕していることを学ぶ。・・・1時間
- ・ 日本のトキについて学び、何が原因となり絶滅に瀕しているかについて理解を深める。・・・1時間
- ・ 自分の興味をもった絶滅危惧動物の現状と感じたことを友だちに伝える。・・・1時間（本時）
- ・ ゴリラについて学び、環境と私たちの生活について考える。・・・1時間
- ・ 紹介したい絶滅危惧動物に関する記事を書いて、友だちやALTのベン先生に情報を発信する。・・・2時間

10 本時の学習指導

(1) 目標

- 絶滅危惧動物のトキに関する記事を読んで、デジタル教科書を活用しながら内容を理解することができる。
- 自分の興味をもった絶滅危惧動物の現状と感じたことを友だちに伝えたり書いたりすることができる。

(2) 準備物 教科書、タブレット、ワークシート、辞書（英和・和英）

(3) 学習指導過程

時間	学習活動と学習内容	教師の指導・助言および支援活動	評価
5分	1 Warm-up をする。 one-minute chat をする。 トピックを直島の動物に関する紹介にして次の活動につなげる。	○ 英語を学ぶ雰囲気作りを行う。	
40分	2 Review Time	○ デジタル教科書を活用して、TorF やリテリングなどを行い、根拠や要点を確認することで本文の内容を深く理解させる。	【主体的に学習に取り組む態度】 (活動の観察) 【知識・技能】 (活動の観察)
	3 本時の学習課題を把握する。		
日本のトキの現状を理解し、守りたい動物について情報を集めて友だちと伝え合おう。			
40分	4 ALT の絶滅危惧動物の紹介を聞いて、分かったことや感じたことを共有する。	○ ALT の例を聞いて、自分たちが行う紹介で何が必要なのかという構成や表現に気づかせる。また、今までに習った表現で使えるものを振り返らせる。	【思考・判断・表現】 (ワークシート)
	5 絶滅危惧動物についてどのように紹介するか考える。	○ フレーズ集やデジタル教科書、モデル文などを参考に構成や自分の思いを再考させる。	
	6 ペアで紹介し合う。	○ 反応をしたり質問をしたりしながら紹介し合うことを意識させる。	
	7 自分が紹介したことを書く。	○ 紹介をして良かった点などをALTとともに全体に共有する。ペアでの活動を通して気づいたことなどを取り入れるようにアドバイスする。	
5分	8 発表に向けての見通しをもつ。	○ 次時では紹介したことに自分の考えを加えることで、よりメッセージ性の強い発表にしていけるよう促す。	

(4) 評価

- ・ 興味をもった絶滅動物について自分の感想やメッセージとともに相手に紹介することができたか。(活動の観察)
- ・ 自分が伝えた紹介は今までに習った表現やモデル文を活用して書くことができていたか。(ワークシート)